

昭和 33 年 12 月 25 日第 3 種郵便物認可
令和 7 年 4 月 1 日発行 1、4、7、10 月 1 日発行
KENCHIKU SHIZUOKA

建築静岡

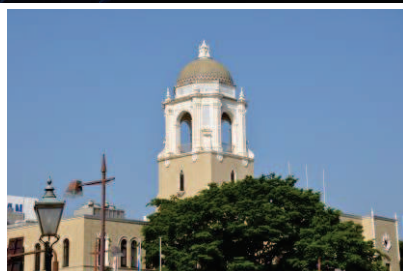
Kenchi ku Shi zu oka

春号

2025 Spring No.692

Public relations
magazine

KENCHIKU SHIZUOKA



特集 ■ 静岡県庁本館・静岡市役所本館



公益社団法人静岡県建築士会
Shizuoka Association of Architects & Building Engineers
<http://www.shizu-shikai.com>

静岡県庁本館・静岡市役所本館 登録有形文化財



作品 ■ 静岡県庁本館

所在地：静岡市葵区追手町
所有者：静岡県
建築年：1937 年（昭和 12 年）
構造：鉄筋コンクリート造
地上 4 階建（一部 5 階建）
登録有形文化財 第 22-0073 号
（2001 年）

懸賞設計で採用された泰井武の設計案を基に、中村興資平が実施設計を担当しました。1930 年代に流行した、鉄筋コンクリート造

の建物に伝統的な屋根をのせた“帝冠様式”とよばれる和洋折衷の意匠で、日本風や東洋風と称しながらも中国風の色彩が強い外観を持っています。



正面上中央部は方形の塔屋を設けており、赤褐色の瓦葺き 5 層建築です。外壁には人造花崗岩が貼られており、窓配列の規則性と相まって、落ち着いたある雰囲気仕上げられています。建物は平面的に中庭が 2 カ所あり、上から見ると日の字形の平面になります。



建築静岡

KENCHIKU SHIZUOKA

2025 Spring No.692

Contents

- 00 | 特集 静岡県庁本館・静岡市役所本館
広報情報委員会 山口知己
- 04 | 西部ブロック 令和 6 年度建築探訪
西部ブロック事業研修委員会 委員長 高野茂樹
担当副委員長 前田勉
- 05 | ハイブリッド社会に生きる
住宅資産研究所 倉田剛
- 06 | まちづくり委員会
景観整備機構まちづくり委員長 倉田裕司

- 07 | 景観整備機構【瓦版】 第 110 号
景観整備機構まちづくり委員 渡辺貴正
- 08 | 技術レポート「軟水生活／ミウラ」
三浦工業株式会社
- 09 | しずおか木造塾 第 3 回・4 回講座
しずおか木造塾委員会 清水利至・早津和之
- 10 | コーヒーブレイク
“変化”「M／東部ブロック」
“サクサンボ”「サクジジ／西部ブロック」
- 11 | 東海北陸ブロック会 ブロック美濃・関大会
本会青年企画委員長 小野田知矢
- 12 | 編集後記・事務局からのお知らせ
- 13 | 静岡県景観賞
広報情報委員会 山口知己

設計 ■ 中村與資平

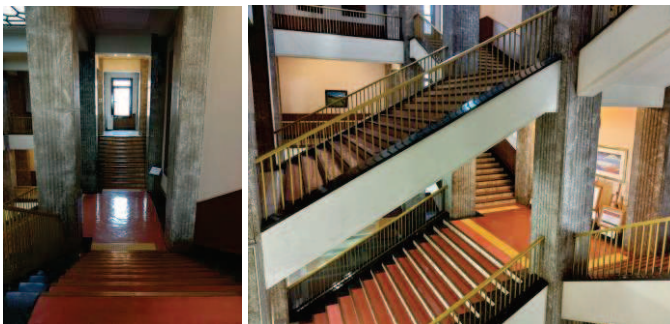
中村與資平は1880年に静岡県長上郡天王新田村（浜松市中央区）に生まれました。東京帝国大学建築学科を卒業後、辰野葛西建築事務所に入所。第一銀行韓国総支店を担当した。その後独立10年間朝鮮半島で活動し帰国した。その後多くの建築の設計を手がけ静岡県内に作品を残している。その多くは登録有形文化財とされ今も残されている。



4階に続く階段の踊り場には、静岡県産品を載せた宝船の壁画が飾られています。3階には静岡県議会本会議場があり、その議場上部には、県の産業や特産品、花鳥などの装飾文様が飾られています。最近では知事が県議会などの前後に報道陣の取材を受ける場所が、裁判所内の設定としてTVドラマの撮影に使われました。



大理石張りの正面玄関、吹き抜けホールの大きな階段が訪れた者の目を引きまします。階段を上った2階のホールの床には方位を示す星型のマークがはめ込まれています。



見えない所へ
全てのちからを
All powers to the invisible place



SGM株式会社

～地業工事一式～

◆ 本社 ◆

〒431-1111 浜松市中央区伊左地町2293番地1
TEL 053-482-8255 FAX 053-482-8266

拠点 ■ 静岡支店 ■ 名古屋支店

<https://sgm-group.jp>

広告募集中

建築静岡に広告を掲載してみませんか？

お問い合わせ先

公益社団法人 静岡県建築士会 本会事務局

電話:054-254-9381 FAX:054-273-0478

Mail: honkai@shizu-shikai.com



作品 ■ 静岡市役所本館

所在地：静岡県静岡市葵区追手町
所有者：静岡市
建築年：1934 年（昭和 9 年）
構造：鉄筋コンクリート造
地上 4 階建（ドーム付）
地下 1 階
登録有形文化財 第 22-0001 号
(1996 年)

1996 年 11 月 15 日、静岡市役所本館は、文化財保護審議会から国に文化財として答申され、適合第一号として選ばれた建物です。あおい塔と呼ばれる 2 層の塔屋のドームが特徴的な建物です。象牙色のタイル貼りの外壁は規則的に窓を配置しながら、装飾が散りばめられています。塔屋や望楼にはスペイン風意匠が施し、「市の王冠としての意味」を担うものとして高塔が設計されました。



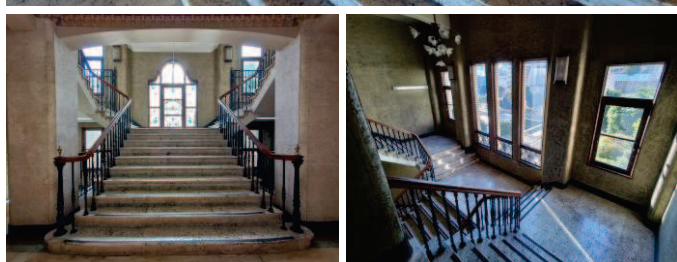
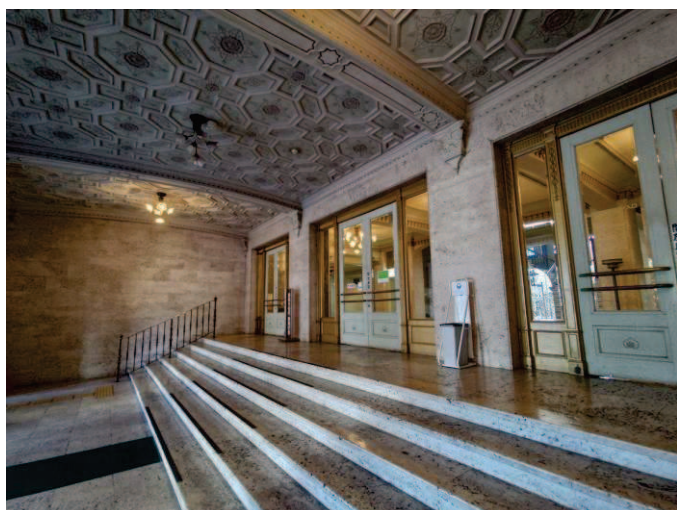
青と緑が基調のテラコッタとモザイクタイルで飾られた塔頂部は、明るさと華やかさを放っており、市の開放性と明るさを表現しています。出入口部の天井の装飾は素晴らしく「東海の枢要都市」静岡にふさわしい外観を備えるために車寄せや塔が付加されており、静岡市が要求したものよりもさらに壮麗な設計が行われています。

— 中村與資平の他の設計作品 —

作品 ■ 旧三十五銀行本店

所在地：静岡県静岡市葵区呉服町





本会議が開催される3階議場内の豪華なシャンデリア、ステンドグラス、議長席背景の壁面には建築当時の雰囲気そのままだと残されています。ステンドグラスは、静岡市出身の工芸家である小川三知の甥・小川三樹と木村信三が制作しました。現在1階は市民ギャラリー及び執務室、2・3階を静岡市議会、4階を傍聴席及び会議室・執務室として使用しています。

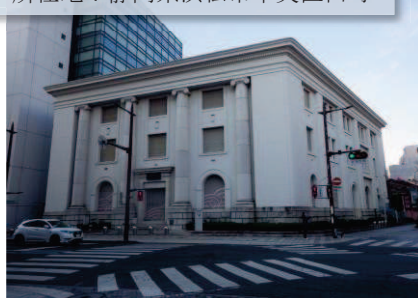
玄関正面にある階段踊り場のステンドグラスの扉は、池やベンチのある中庭へと続いています。またホルの壁、柱、階段は琉球石灰岩で造られており、石材の中に化石をみるができます。



議会特別応接室ではアイドルグループのMV撮影も行われました。また市内各所もロケに利用されています。

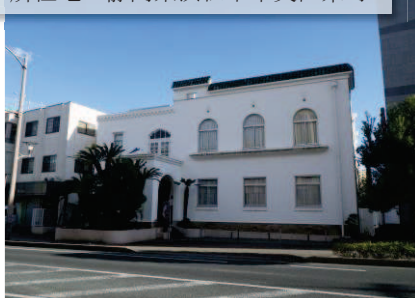
作品 ■ 旧遠州銀行本店

所在地：静岡県浜松市中央区田町



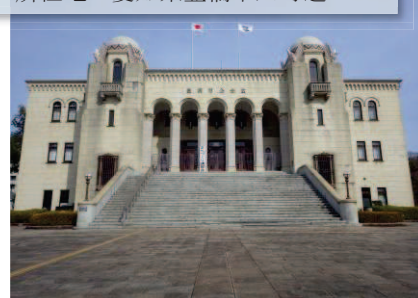
作品 ■ 旧浜松銀行協会

所在地：静岡県浜松市中央区栄町



作品 ■ 豊橋市公会堂

所在地：愛知県豊橋市八町通





令和6年度建築探訪（聴竹居、竹中大工道具館）が、静岡県建築士会西部ブロック事業研修委員会の主催で2025年2月1日から2日にかけて行われました。

会員家族29名が参加し、1日目は袋井駅から浜松駅を順次出発後、京都府大山崎町の重要文化財「聴竹居」に向かいました。



建築家 藤井厚二による昭和初期の近代和風建築で、自然の光と風を活かした設計や茶室について、ガイドから詳しい説明を受けました。



外部からの通風（クールチューブを利用した自然換気システム）や日照を考慮した軒の出、照明器具や取手のデザインなどなど、チャレンジ精神と遊び心をひしひしと感じる素敵な建物でした。また改めてゆっくりと訪れてみたいです。

その後、アサヒグループ大山崎山荘美術館（ハーフティンバー工法とRC造打放し）も視察し、夜は神戸南京町中華街で懇親会を開催しました。



2日目は神戸ポートタワーの新しい屋上デッキを訪れ、続いて竹中大工道具館で伝統的な大工道具の使い方や製作工程について学びました。



名工と呼ばれる方々の作られた大工道具は素晴らしいですね！フィリップ・ワイズベッカーがそれらの道具を絵に描いており、ポストカードになっていましたのでお土産に買って帰りました。



昼食は神戸酒心館でお酒なども楽しみ、午後から帰路につきました。



参加者からは「ガイドの説明が分かりやすかった」「専門的な知識が深まった」「また来てみたい」などの嬉しい感想が寄せられ、近代和風建築から伝統的な大工道具まで幅広く建築文化に触れる有意義な建築探訪となりました。参加者の皆様、お疲れ様でした。



老後と持家資産の日米比較

倉田 剛*

「長生き」は万人共通の僥倖だが、反面、長生きすると、「認知症などの老人性疾患が怖い」、「老々介護の心配」「家族と離れて施設で過ごすのが心配」、「生活費が足りない」等々、老後の暮らしの不安材料は枚挙に暇がない。平均的な高齢者が描く“望ましい老後”とは、“最期まで在宅で自立した生活”であり、そのための必要条件とすれば、まずは健康、次に経済的安定、そして生活支援サービスの3つに集約される。とは言え、現実問題として、長命化とともに老人性疾患の発症率も高まることから、単独世帯が最期まで「在宅居住」を続けることはほぼ絶望的である。単独世帯や夫婦だけの高齢者世帯の場合は外部からの医療や介護保険サービスなどの支援なくしては、「在宅居住」を継続することは難しい。言い換えるならば、老後の「在宅居住」とは、即ち、外部（他者）から支えられて体现できる「自立生活」であり、支援を依存できる他者を増やすことによって、その「自立生活」が確かなものになり継続できることである。

核家族化が普遍的な近年では、老親の「在宅居住」の継続は、子世代にとっても等閑視できない家族の課題であり、介護離職などに発展する火種ともなりかねない問題でもある。稿者が実際に相談された事例であるが、持家に住む単独世帯のA氏（男性、76歳）が認知症の初期症状（妄想）を発症させているのに気付いた近所の住民が地域包括支援センターに連絡した。本人は夜間の妄想に怯えて施設入所を希望していた。遠方に住んでいて疎遠であった息子（40歳）だが、親を介護施設に入所させるか、あるいは在宅介護のために介護離職するか、決断を迫られる事態となった。こうした事情を抱えた高齢者の単独世帯の増加が火災事故の多発と関係しているのかもしれない。

単独世帯の高齢者が、「在宅居住」を諦めて老人施設に入所すると、それまで居住していた住まい（持家）は空き家化するし、問題化するリスクがある。こうした事態でも、「在宅居住」を要件とする公的リバースモーゲージを使っている世帯ならば、本人の施設入所で解約となり代物弁済が始まることから、空き家の問題化リスクは解消し、イエとカネ（負債）の生活資源も消滅することになる。自治体が、空き家の固定資産税の立替えや解体工事費などを融資する持家（土地）担保型空き家対策制度（空き家向けリバースモーゲージ）を独自に創設するならば、地域の空き家の問題化リスクの予防効果は確かであり、一考に値する。

「エイジングという現実に対する態度」について調査した資料⁽¹⁾を使いながら、アメリカ人の老後の生活観などを読み取ってみよう。当時のアメリカ人の平均寿命は75.35歳であり、日本人は男女ともすでに80歳を超えていた。両国の寿命の格差は、それぞれの老後の生活意識や社会保障制度に色濃く影響している。

アメリカでも高齢者の持家率は日本人と近い約8割であり、家族や友人知人の助けや外部サービスを使いながら、可能な限り「在宅居住」を続けたい人が大半である。政府も、持家の固定資産税を減額したり延納を認めたりしながら、高齢者の「在宅居住」の継続を支援している。アメリカ人の大半が、男女差なく、退職後の生活を楽しみにしている。アメリカの法律では、親は子供の扶養義務が課せられているが、子供には親の扶養義務はない。アメリカ人はそもそも子供への依存心は極めて希薄であり、自立心が強い。そして、アメリカ人のライフスタイルの根底には宗教心がみえることから、死そのものを恐れていない人も多い。高齢期になると、日々の生活のすべてを神の思し召しと受け止める傾向が強まってくる。アメリカの高齢者には、個人としての旺盛な独立心と相互扶助の精神を持ち合わせている人が多い。アメリカ社会のボランティア活動は、多岐に及ぶが、決して特別な行為ではなくて、日常的な社会参加であり、生活の一部となって定着している。

平均的なアメリカ人の家計（財布）の担保は、持家の資産価値（Home Equity）であり、その市場価格（相場）から債務（ローン残債）を差し引いた残額である。アメリカ人が、頻繁に、積極的に繰り返す住み替え（買い替え）も、ポピュラーな資産形成の一法であり、金利変動のチェックや持家の日常的なメンテナンス（DIY）も資産管理の一環である。アメリカ人にとっての持家とは、居住用資産でありながら金融資産的な一面も強く、税制支援もあることから取引件数は日本に比べたら圧倒的に多い。アメリカ政府が、公的リバースモーゲージ（HECM）を創設した背景には、「国民の住宅を取得する自助努力的行為に対して政府は敬意を払うべきであり、その住宅を老後のセーフティネットに転換させる制度が必要」といった政策的含意があった⁽²⁾。HECMは、持家高齢者の「在宅居住」を保証しながら、契約時の融資額を途中変更することもなく（日本は3年毎に見直す）終身貸与し続ける持家終身年金化制度として定着させている。その制度理念は日本の「終身定期金契約（民法第689条）」と類似するものであり、学ぶべき点がある。

⁽¹⁾加藤燕子・ジョーン・ハーヴェイ『老後を自立してーエイジングと向き合う』
 (2001) 日本放送出版協会。

⁽²⁾ロバート・パトラー（1991）『老後はなぜ悲劇なのか？』メヂカルフレンド社。

* NPO 法人リバースモーゲージ推進機構・理事長
 一級建築士、宅建取引士、博士（法政大学、愛知工業大学）

資料から読むアメリカ人の老後

不動産バブルが崩壊していた1994年に、アメリカ人の



■連合会まちづくり委員会

建築士会連合会の常設委員会のうち、まちづくり委員会、青年委員会、女性委員会の3委員会は、各県建築士会（単位士会）ごとに委員長がいて、それぞれ年一回委員長が一堂に会する、全国まちづくり会議、全国青年委員長会議、全国女性建築士連絡協議会を開催しています。

今年度より、連合会まちづくり委員会に参加することになりました。そこで、連合会まちづくり委員会の活動内容について紹介したいと思います。

まず、委員の構成は、委員長、各ブロック（連合会では全国を北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国四国、九州沖縄の7ブロックに分けています）の推薦委員7名と委員長推薦委員3名の合計11名に担当副会長1名です。年4回程度委員会は開催されます。その内2回は対面形式、その他はZOOMによるWeb会議です。

■全国まちづくり会議

まちづくり委員会の活動のうち、重点事業は毎年1回開催する「全国まちづくり会議」です。昨年までは「全国まちづくり委員長会議」と呼ばれていましたが、今年より名称を変更いたしました。従来の呼び方であると、47都道府県の委員長のみが集まる会議との印象が強く、各県活動の報告の場ととらえられていました。今年から、まちづくり部会長や、まちづくり活動に興味ある会員も参加できる会議に変えたいという委員長の思いで名称変更となりました。開催方法も従来は、東京と地方で隔年ごとで開催していましたが、今年度からは、ブロック毎に自薦他薦で開催地を決定していく方式に変更されました。今年は東京開催の年でしたが、連合会まちづくり委員で島根建築士会会長が会議の開催に手を挙げてくれました。島根県松江市白潟地区のまちづくりをテーマに全国から103名の会員が会議に参加しました。

来年の開催地は、東日本大震災から15年の節目を迎える東北、宮城県での開催に決まりました。震災の復興に建築士会連合会が関わった、女川町竹浦北団地の今を見学します。かつて、震災後10年の時に宮城県でまちづく会議を開催する計画がありましたが、コロナ禍で開催を断念したことがあります。5年越しでの開催となります。東北の今を見ることが出来るプログラムが検討されています。興味がある方は参加を検討してみてください。

■まちづくり部会

まちづくり委員会内には、景観まちづくり、防災まちづくり、歴史まちづくり、街中（空き家）、福祉まちづくり、木のまちづくりの6部会があります。全国単位建築士会

ごとに地域リーダーが6部会6名いて、ブロックごとにリーダーが選出されています。各部会の部会長はまちづくり委員会で指名します。各部会長はブロックリーダーと部会を年に数回ZOOMで開催します。

部会の活動内容は、各部会のテーマごとに各県建築士会のまちづくり活動情報を収集して、全国大会のセッションで発信を行うことです。

■全国大会のセッション

全国大会のまちづくりセッション運営もまちづくり委員会で行っています。セッションは全国大会式典の午前中に部会のテーマごとに開催されます。ただ、毎年必ず6つのテーマで開催するのではなく、複数の部会が共通のテーマを掲げて合同で開催する年もあります。静岡大会では景観と歴史が合同開催しました。

このセッションは今、大きな課題を抱えています。式典当日の午前中、各セッションは同じ時間に開催されるので、複数のセッションに参加することができないのです。まちづくりの活動を6つにわけた部会ですが、現実のまちづくりというものは、明確にテーマ分け出来るものではなく、6つのテーマ以外も含めて複雑に絡み合っています。本来は全てのセッションに参加でき、その後にまちづくりを議論することが大切なはずですが、これについては、来年の群馬大会以降でセッションの在り方を変えようと検討しています。

■東海北陸ブロックのまちづくり委員会

東海北陸ブロックでのまちづくり委員会の活動を報告します。東海北陸6県では、年1回委員長が集まる「まちづくり委員長会議」を各県持ち回りで行っています。まち歩きと会議がセットになっています。今年度は静岡県が担当県で、掛川市で行いました。例年は委員長のみの会議ですが、委員長以外の参加も呼び掛けて開催したところ岐阜県からは3名の参加を頂きました。県内からも多数の参加がありました。今後は連合会と連動して、委員長中心ではなく、まちづくりに興味ある会員が参加できる場を目指していきたいと思っています。

■静岡県建築士会景観整備機構まちづくり委員会

静岡県内では、本会に景観整備機構まちづくり委員会、各ブロック内にまちづくり委員会があります。まちづくりに興味ある会員の方、ブロックのまちづくり委員会に参加してみませんか？

（景観整備機構まちづくり委員長 倉田 裕司）



■全国まちづくり会議 in 松江 - 白潟地区の未来を考える2日間

1月31日から2月1日にかけて、第33回全国まちづくり会議が松江市白潟地区で開催されました。全国の建築士やまちづくり関係者が集い、地域の取り組みを学び、現場を歩き、未来を語り合う場となりました。白潟の持つ可能性と課題に向き合い、実践的な議論が交わされた2日間を振り返ります。

■1日目：白潟のまちづくりを知る

初日は、「まっすえ白潟エリア賑わい具体化構想策定協議会」メンバーとして活動する地元の実践者7名と、コーディネーター2名によるクロストークが行われました。5年計画の2年目にあたる今回は、空き家の掘り起こし、商店街の再生、公共空間の活用法などが紹介されました。

改装中の建物を公開し、新たな使い手を募る「たてものぐるり」、蔵を活かしたポップアップスペースの運営、建築学科の学生と連携したワークショップ、解体イベントを通じた空き家活用など、街に新たな動きを生む事例が示され、参加者の関心を集めます。また、公共空間の利活用として、川沿いに長いカウンターを設ける取り組みが進められ、水辺の魅力を活かした賑わいづくりが実践されています。



続くまちあるきでは、歴史ある建物や空き家の活用現場を巡りながら、街の変化を体感。参加者同士の対話も深まり、白潟のまちづくりを肌で感じる貴重な時間となりました。

会議後には交流会が開かれ、宍道湖のしじみや地酒を味わいながら、まちづくりの話題が尽きることはありません。パネラーも加わり、クロストークで語りきれなかったテーマについて意見が交わされ、活気あふれる場となりました。



■2日目：白潟の未来を考える

2日目は、ワールドカフェ形式のワークショップが開催され、「街に新たに加えたいもの」「地域経済を持続可能にするには」「来訪者をどのように迎え入れるか」といったテーマを中心に議論が進みました。

移動の利便性向上や、歴史を活かした仕掛けづくり、住民と観光客が交わる場の創出など、多岐にわたる意見が交わされます。また、都市と自然のバランスや長期的なまちのあり方についても議論が展開され、白潟の未来を模索する場となりました。



■稼ぐ力を持つまちへ - まちづくりファンドの挑戦

白潟のまちづくりには、「経済の自立」という大きなテーマが掲げられています。公共事業だけに頼るのではなく、地域の人々が投資し、街の価値を高めていくことが求められました。

その一例として、民間主導のまちづくりファンドが紹介され、商工会議所の会頭をはじめとする地域経済のリーダーが動き、多くの資金が集められています。銀行も「街が賑わえば経済も潤う」とまちづくりに協力し、空き家のリノベーションや新たな商業スペースの開発が進められています。まちづくりを「投資」として捉え、地域の活性化につなげる実践的なモデルとして、今後の展開が期待されています。

■「妄想」から生まれるまちづくり

今回の会議で印象的だったのは、「妄想」を楽しむ姿勢でした。行政が推進すると「構想」になりますが、民間なら「妄想」として自由にアイデアを出せる。そこから新たなプロジェクトが生まれ、実践へとつながっています。その一例が「土曜夜市」の復活です。かつて人で溢れたこのイベントを月1回開催とし、無理なく継続可能な形を実現。現在も来場者2万人を超える賑わいを見せています。

白潟は松江のルーツともいえる街。歴史と水辺の風景を活かし、どのように賑わいを生み出していくのか。数年後、この街を再び訪れたとき、どのような景色が広がっているのか。そう思わずにはいられない、2日間となりました。

(景観整備機構まちづくり委員 渡辺 貴正)

軟水生活

ずっと快適、
もっとしあわせ

熱・水・環境のベストパートナー
MiURA

■軟水とは

一般的に水の中にはカルシウムイオンやマグネシウムイオンといった「硬度成分」が溶け込んでいて、その含有量が高い水を「硬水」、低い水を「軟水」といいます。欧米に比べ日本の水道水は軟水ですが、それでも平均で約60mg/Lもの硬度成分を含んでいます。

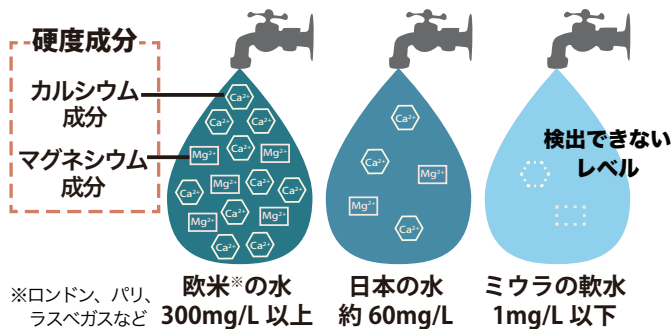


図1. 水の硬度比較

硬度成分があると、肌のかゆみ、ツツパリ、毛髪のパサツきの一因になるだけでなく、水まわりのカビ汚れや水垢など、様々な水ストレスに繋がります。



写真1. 硬度成分が引き起こす現象

そこで、これらの水ストレスの対策として生まれたのが、水中の硬度成分をほぼ0

(1mg/L以下) まで取り除き、高純度の軟化水を作り出すミウラの家庭用軟水器「軟太郎ソフトィナ」です。

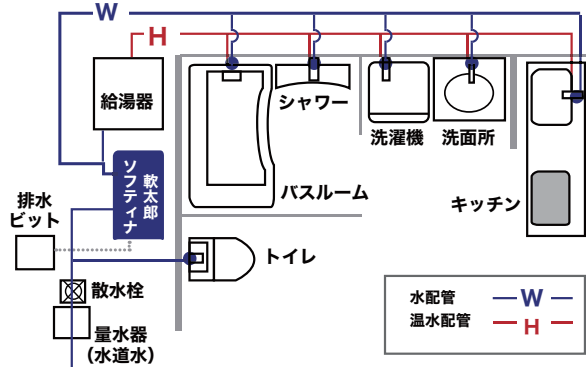


写真2. 軟太郎ソフトィナ本体

■家庭用軟水器「軟太郎ソフトィナ」

業務用軟水器は品質やサービス向上などのため、入浴施設、美容室、飲食店、クリーニング店、歯科医院や産婦人科など、様々な業種で使用されています。日本の産業に貢献してきた技術はそのまま、一般家庭にも設置できるよう、仕様を変えてコンパクトに設計された軟太郎ソフトィナは、国内で一つ一つ丁寧に製造しているだけでなく、第三者認証品で、飲用にも使用

可能です。また、屋外設置型で居住空間の邪魔にならず、家中に高純度軟化水を供給できます。

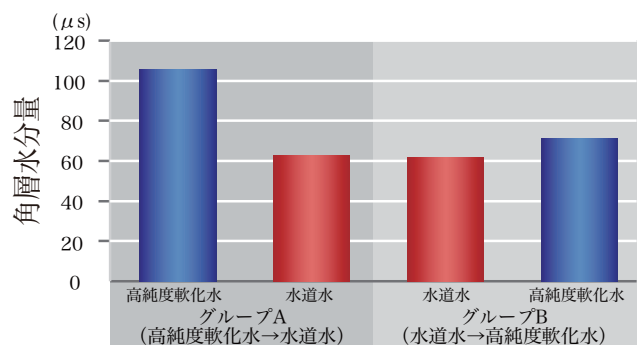


施工事例：1階に設置して1階に供給する場合

■ミウラの軟水「高純度軟化水」の研究紹介

ミウラでは軟水生活のメリットについて、様々な研究を行ってきました。その中で、アトピー性皮膚炎のモデルマウスやイヌにおいて、高純度軟化水を使用すると、皮膚バリア機能を早期に改善できることが分かっていました。この研究を元に、手荒れが問題視されている看護師の手洗いに使用する水を、高純度軟化水にすることで手荒れを軽減できるのか、東京都立小児医療センターで評価していただきました。

看護師43名にご協力いただき、手洗いで使用する水をAグループは高純度軟化水4週間の後、水道水を4週間、Bグループでは逆に水道水4週間の後、高純度軟化水を4週間使用し、肌の角層水分量を測定し平均を求めました。すると、グループA、Bいずれも高純度軟化水の使用時の方が角層水分量が高くなりました。つまり、高純度軟化水は、手荒れ改善に効果があることが考えられます。



グラフ1. 角層水分量の比較

■おわりに

日常生活で使用する水のうち、飲料水はわずか1%で、99%は生活水になります。飲料水にこだわる方は多いですが、生活水に着目する方はまだ少ないです。水ストレスを軽減した快適な毎日のために、生活水についても考えてみてはいかがでしょうか。

資料請求・お問い合わせ

<https://www.miuraz.co.jp>・<https://www.nansui.jp>

三浦工業株式会社 中部軟水ライフ営業課

TEL 052-401-7327

しずおか木造塾2024 第3(省エネ)・第4講座(デザイン・リノベ)

しずおか木造塾委員会 清水利至、早津和之

第3講座 「心地よいエコハウスのつくり方」 ～断熱等級だけでは得られない心地よさ～

岐阜県立森林文化アカデミー教授 辻 充孝氏

第1部 建築の工夫と暮らしの工夫

- ・「**建築の工夫**」とは、パッシブデザインを取り入れることである。まず建築地の気象データから気候特性を知り、設計への活用できる点を探す。

次に、周囲の環境、地形などを調査し、その土地のポジティブな要素を見つけ出す。

- ・「**暮らしの工夫**」は、住まい手の暮らし方をヒアリングし、省エネにつながる暮らし方のイメージをつくる。設計を進める中では南からの日射を意識した配置計画を行い、どのようなパッシブ手法を使うことができるか検討する。

- ・加えて「**設備の工夫**」、「**創エネの工夫**」を考える。

- ◎「**躯体の性能**」としては断熱性能、日射熱制御性能、気密性能、防露性能について十年先を見据えたレベルを確保し、変化する多様な暮らし方に対応できるようにして、**断熱等級6以上**を目指す。

- ・建物ができてから温熱環境の実測や、エネルギー消費量の実測を行い、建物の性能を活かすことができる暮らし方を意識することが心地よいエコな暮らしにつながっていく。

- ◎断熱化により建物内外の温度差が広がるため、「**壁内結露**」のリスクが高くなるので防露対策も必要。

- ・室内側で水蒸気が壁内に入るのを防ぎ、入った場合でも、外部で逃がすことができるような壁の構成とする。

- ・外張り断熱も**壁内結露**を防ぐ選択肢の一つである。

【まとめ】

- ・断熱性能だけではなく、パッシブデザインを取り入れたり、各種ツールを使って計画建物の性能を確認したり、暮らし方を意識することで、心地よいエコな暮らしにつながっていく。

【著書】「**ぜんぶ絵でわかるエコハウス**」＜必読＞

第4講座第1部

「100年後も生き続けるデザインとは」

24年連続・住宅技術評論家 南雄三氏

◎新築住宅への健康・省エネ施策を振り返る

- ・高気密、高断熱→温暖化→SDGs,脱炭素→ホールライフカーボンの流れ

<新築から既存のことを考える時代が始まった>

- ・“均質な全館空調”か、“不均質^{かんげつ}な部分間歇空調”を住まい手が選ぶ。不均質だから面白い。
- ・既存建築の断熱改修がむずかしくなる。
服を着ることからスタート。湯たんぽ、コタツ等。
- ・空き家を買取り再販。高性能の改修の可能性大。
- ・自分の理想は、中古住宅市場をつくりたい。

◎100年も生き続けるデザイン

- ・“**長命住宅**”を考えるために、世界や日本の住宅を探る。小泉八雲邸(松江)、ミコノス、サンタフェ
- ・自邸を環境共生住宅に再生。パッシブデザイン。
- ・エコは循環＝量と時間
- ・日本の住宅史紹介
- ・南雄三の住宅を巡るYouTubeや拙新論争を紹介

第2部「リノベの実態と空き家再生事業」

不動産活用コンサルタント 内山博文氏

- ・住宅着工と人口減少の関係は、予想通りに減少。
- ・人口の流れを知ることが必要で未来を考える。
- ・リノベーション住宅推進協議会(2009年設立)

住宅の品質基準の設定。業界の枠を超えて参加。

⇒(一社)リノベーション協議会(600社以上)

- ・消費者が安心して既存住宅を選べる市場をつくり既存住宅の流通活性化させる。

- ・“優良な”リノベーション住宅の理解、普及浸透を推進する。ストック活用のビジネスへ＝建築と不動産、金融サービスで、既存住宅を**不動産のチカラ**で街を変える。 **新基準「R1住宅エコ」を策定!**

- ・「**性能向上リノベの会**」

断熱と耐震の性能向上リノベーションで、これから暮らす家の**新しいスタンダード**をつくるためのプラットフォーム。 加入を検討ください!

変化

M/東部ブロック



さあ、コーヒブレイクの担当が回ってきた！
今回は何を書こうかな？と頭を浮かぶこと、それは「変化」でした。

身近な変化と言えば、法改正に伴う確認申請の方法とそれに対応する建築。

24 時間換気扇の義務化が 2003 年なのでもう 20 年以上も経つのかと改めて思うが、今回はそれ以上にコストに大きく関わる法改正。

構造や省エネが厳格化されるのは、悪い事では無いと思うけど、これから建物を新築しようとする施主にとっては、とてつもない負担増になるのは、はたして良いのかは、ちょっと疑問にも思う。

とは言っても、法律で決まってしまった事なので、それに準じて仕事をするしかないでしょう。

変化で言えば、最近ニュースで日産自動車の事をよく見る。電気自動車の SAKKARA が売れまくっていたのに突然全く売れなくなったとか、大規模なリストラの報道があったとか、経営不振とか、本田技研や三菱自動車との経営統合、そしていつの間にか白紙に。

日産が台湾の会社を買収されたら、日産の技術が全部持っていかれて、部品調達も異本国外になり、国内の自動車部品工場の連鎖倒産の危機とか。

公開されていない情報よりも、報道されていない事実の方が多いでしょうから、実際のところは分かりませんが、三洋電機やシャープみたいに簡単に国外企業に買収されて技術だけが流れていくのはさみしい限りです。

これを書いているのが 2025 年 2 月 7 日。日産自動車のこれからがどうなるかわからないけど、何年かしてこれを読み直した時、そんな事あったなあと思うかな。

話は変わりますが、報道されていない情報という事で、静岡県建築士会でも各委員会が一生懸命活動している事実を、事業が終わったらそれで終了するのではなく、何らかの形で報告しないと、もったいないです。せっかく頑張ったのだから、それを記録として残す方法が、建築士会の Web サイトだったり建築静岡です。

建築静岡

Kenchiku Shizuoka

サクサンポ

サクジジ/西部ブロック



サクサンポ VoL.1

サクちゃんは散歩に行くと、ウンチとおしっこをする。ウンチが先の時もあるし、おしっこが先の時もある。こっちとしては、ウンチの時はアスファルトの上、おしっこの場合は草の上にしてほしい。おしっこをアスファルトの上にされると妙な跡が残るし、草の上のウンチは取りにくい。ウンチかな～と思ってアスファルトの上に連れて行くとおしっこをしてシミをつくり、おしっこかな～と思って草の上に連れていくとウンチをするので取りにくい。「だんな～今日はまずはウンチからどうぞ！！」と言ってくれると嬉しいのだが・・・。

サクサンポ VoL.2

大谷、大谷と言うけれど、静大OBとしては、ついつい、オオヤと読んでしまう（静岡市民アルアルかも）。そんな大谷であるが、彼を見習って僕も散歩中にゴミ拾いをしている。ゴミを拾っていると、捨てた人はゴミといっしょに幸運も捨てていることが、うすうす感じるようになってきた。それにしても未だにタバコの吸い殻のポイ捨てが絶えない。そんなタバコを拾って、ウンチといっしょにウンチ袋に入れておくと、さすがのサクちゃんのウンチも、1 本のタバコの吸い殻の臭いに負けてしまう。やっぱり、タバコは体に悪いなあと思う今日この頃だ。ひとつだけ確実に言えることは、デコピンよりサクちゃんは 100 倍可愛い。

サクサンポ VoL.3

そんなサクちゃんは、最近、咳がひどくて元気がない。先日、名古屋の病院まで連れていった。保険をかけてないので、検査だけで 20 万、手術をすると 100 万円。ドクター X の蛭間部長(西田敏行)の気持ちがよくわかる今日この頃である。サクちゃんは 4 月には元気になっている予定である。





令和7年2月15日16日に岐阜県美濃市・関市にて建築士会東海北陸ブロック会（以下：THB）青年建築士協議会主催の「令和6年度ブロック美濃・関大会」が開催されました。

THB 青年建築士協議会では、7県が持ち回りでブロック大会を開催しており、今年度は岐阜県が担当でした。今年の大会テーマは「木の国から学ぶ ～これからのまちづくり～」です。木と深く関わることで発展してきた美濃市・関市のまちづくりから木材がどのように活用されてきたかを学び、これからの木材の活用、そして安全なまちづくりへと繋げられる大会にすることを目的としました。

建築やまちづくりの知見を得るだけでなく、青年委員会と女性委員会が合同で大会を行い、新たな交流が生まれる素晴らしい大会となりました。

本大会には関市長、建築士会連合会の古谷会長、連合会青年委員会の吉田委員長、静岡県松本会長の松下会長をはじめ、様々な方に参加していただきました。連合会青年委員会からは北海道から九州まで全国の代表が参加してくださり、他ブロックのお話も伺うことができました。



懇親会の様子

2日目の分科会は講演会1：「火事に負けない木造建築をつくる ～伝統建築から中規模木造まで～」、講演会2：「木造建築の「強・用・美」誰でも「美」が身につく学び ～monorisとNIPPONIA 美濃 商家 町とデッサン～」の2つのグループに分かれて講演を聞きました。どちらの講演もためになる情報ばかりで、帰りの移動中にこれから活用していけそうだという話で盛り上がっていました。



分科会①の様子

2日間の大会で新たな知見や交流が得られ、これからの活動に生かしていきたいと思います。参加者の皆様お疲れ様でした。



集合写真（全体）



集合写真（静岡）



開会式の様子

まちあるきはA：「小・中規模木造見学コース」、B：「うだつの町並みとまちごと活用コース」、C：「美濃和紙とうだつの町並み見学コース」、D：「関市の歴史ある町並みと空き家活用コース」の4班に分かれてそれぞれの建築・まちづくりを見学しました。



まちあるき（D班）の様子

懇親会は2日目の分科会講師を交えて行いました。他県や女性建築士の方々と交流し、各々の活躍の場が広がる貴重な時間になったと思います。

◆編集後記

見た人もいるかと思いますが、某ドラマのロケ地で使用された静岡県庁です。最近、ドラマや映画の撮影を誘致して制作をサポートする為、自治体等を中心として“フィルムコミッション”が行われています。地域の知名度を上げて、観光客の増加に繋げ、地域愛着度を向上させることにも。ドラマやアニメ、さらにはそのキャラクターとタイアップして、キャンペーンを地域が中心に行ったりウェブで発信したり。自治体にとってもおおいに有益であり、メディアにとってもプラスになります。おとなや子供にかかわらず、多くのファン達が聖地巡礼というかたちで関連する場所を巡ることも多く、中には移住さえ考えられる人もいます。近隣問題やオーバーツーリズム等のなんらかのトラブルの回避など地元の理解と協力が必須ですが、ここを行政や企業また住民が協力して、ビジネスチャンスだととらえる事ができれば、人的・経済的なことも含めて地方創生を進めていくうえで非常に良いことではないかと思います。

編集長：広報情報委員 山口知己

◆お知らせ、その他

取材協力・素材提供

- ・静岡県様
- ・静岡市様
- ・三浦工業株式会社

ご協力感謝いたします。

◆ご意見募集

静岡県建築士会広報情報委員では、広報誌「建築静岡」をより有益な情報源とするためのご意見、ご提案を募集しています。お名前、ブロック名をご記入の上、下記あてに FAX でお願いします。なお、いただきましたご意見は非公開とし、個々のご意見への直接回答は控えさせていただきます、ご了承下さい。

公益社団法人 静岡県建築士会
広報誌意見募集係 FAX 054-273-0478

◆広報情報委員会

担当副会長：吉山真三 (西部)
担当理事：藤原龍美 (西部)
委員長：杉山真一 (中部)
副委員長：内山孝 (西部)
：鈴木忠 (東部)

委員：
(東部) 三田芳之 ・ 塩見敏弘 ・ 長尾隆行
(中部) 星野浩二 ・ 松村香代子 ・ 佐藤真知子
(西部) 福田光宏 ・ 志茂野昌歳 ・ 山口知己

編集長：山口知己 (2025 Spring)

発行所：公益社団法人静岡県建築士会
〒420-0033 静岡市葵区昭和町9-5 第2大石ビル7階
TEL 054-254-9381 FAX 054-273-0478
http://www.shizu-shikai.com

印刷所：(有)橋本印刷所

◆事務局からのお知らせ

◇年会費の納入について◇

令和7年度の年会費の納入期日は5月27日(火)です。

年会費納入手順は

- ・口座振替(引落)の会員様は前日までに銀行口座にご準備ください。
- ・お振込の会員様は5月27日(火)までに士会の指定口座にお振込ください。

※振込の際は、会員番号を記載し振込手数料はご負担ください。

お問合せは、本会事務局・各ブロック事務局まで。

本会事務局：054-254-9381 東部ブロック：055-939-8210

中部ブロック：054-204-6880 西部ブロック：053-451-5166

※会費及び入会金に関する規程

第5条第2項により会員様は、会費の年額を毎年5月27日(その日が土・日又は祝日に当たるときは翌営業日)までに納入しなければならないことになっています。

会員数 令和7年3月21日現在

■正会員 914
■賛助会員 140
■合計 1,054

入会者

■正会員 4名

静岡：芹沢 麻美 2級
志太：鈴木 浩 1級 (株)久米設計 中部支社
浜松：内藤 恵子 1級 住友林業ホームテック (株)
浜松：酒百 小織 1級 (有)スズマサ

■賛助会員 1社

浜松：都市開発 (株) 浜松市中央区佐鳴台三丁目45番1号

退会者

■正会員 22名

■賛助会員 3社

■物故者 3名

鈴木 弘行 (沼津)
増田 哲朗 (富士)
中本 徹 (浜松)

ご冥福をお祈り申し上げます

令和7年度 一級/二級/木造建築士定期講習 開催日程

令和4年度(R4.4.1~R5.3.31)に受講された方は、今年受講対象です。
開催案内は、静岡県建築士会HPに掲載いたします。
開催案内の申込受付期間をご確認いただき、お申込みください。

	講習日	場所	定員
第2期	令和7年7月11日(金)	(公社)静岡県建築士会8階会議室	22名
	令和7年7月15日(火)	(公社)静岡県建築士会 東部ブロック事務局会議室(2階)	30名
	令和7年7月25日(金)	アクトシティ浜松 コンGRESセンター21会議室	42名



2025 年 4 月から 省エネ基準適合が義務化されました

省エネ適合性判定

住宅性能評価

長期優良住宅

まちセンへお気軽に ご相談ください

(一財) 静岡県建築住宅まちづくりセンター
住宅部 評価業務課

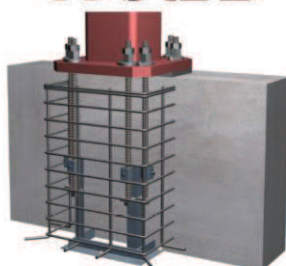
☎ 054-202-5573 9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00
(土日祝日およびセンター休業日除く)



業務担当部署に直接問い合わせができる
ホームページの「業務別お問い合わせフォーム」も是非ご利用ください

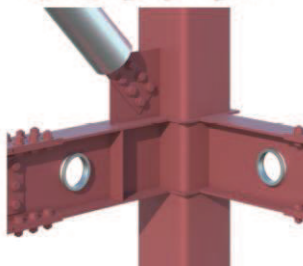
露出型弾性固定柱脚工法

ベースパック



鉄骨梁貫通孔補強工法

OSリング



中低層の様々な建物に使用可能!

SPフィットブレース
Slim Pin Fit Brace



鋼材系制振デバイス

ツイストダンパー
TWIST DAMPER



お問合せ先



岡部株式会社

ベースパック事業部 〒420-0035 静岡市葵区七間町 18-1 PIVOT 静岡 301
TEL:054-204-7282 FAX:054-204-7288 URL:<http://www.b-pack.net/>

書籍販売

静岡県建築関係規則集 (平成 30 年度版)

静岡県建築士会では、静岡県建築関係規則集(平成 30 年度版)を販売しております。
この静岡県建築関係規則集は再版の予定が無い為、在庫限りの販売となります。

発行：公益社団法人静岡県建築士会 監修：静岡県 くらし・環境部 建築住宅局

《会員 価格 4, 400 円(税込み)》 *発送も承ります。(有料)

《非会員価格 8, 800 円(税込み)》 詳細は当士会HPでご確認下さい。

販売場所：本会事務局または各ブロック事務局

本会事務局 TEL. (054) 254-9381 東部ブロック TEL. (055) 939-8210

中部ブロック TEL. (054) 204-6880 東部ブロック TEL. (053) 451-5166

静岡県景観賞 令和 6 年度受賞地区



最優秀賞(静岡県知事賞)受賞者:景域計画株式会社・関東地方環境事務所

『富士箱根伊豆国立公園 田貫湖富岳テラス』(富士宮市) 所在地:富士宮市佐折地内



田貫湖富岳テラスは、環境省が再整備した富士箱根伊豆国立公園の田貫湖畔(富士宮市)に位置する富士山を望むための展望テラスであり、ここからは富士山山頂に太陽が昇る瞬間、ダイヤモンドのように輝く「ダイヤモンド富士」や田貫湖に映り込む「逆さ富士」を真正面から望むことができます。

コロナ禍の後、インバウンドの本格的な回復に向け、わが国を代表するこの優れた眺望地点のさらなる磨き上げが求められていました。これらの背景から、眺望地点から富士山や田貫湖畔などの周辺の環境をより体感として感じることができるよう展望テラスを目指しました。

優秀賞(静岡県建設業協会賞)受賞者:伊豆市・東京大学生産技術研究所 今井研究室・日本工営都市空間株式会社・松原公園及び津波避難複合施設整備 検討委員会

『海と共に生きる 津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」』(伊豆市) 所在地:伊豆市土肥 2648-2



全国初の津波災害特別警戒区域(オレンジゾーン)を指定した伊豆市土肥地域において、避難タワーに観光機能を融合させた、同じく全国初の津波避難複合施設が完成しました。防災機能に加え、日常的には展望台や観光施設としての役割を果たすことで、利用そのものを避難訓練とし、地域の方や観光客の防災意識を高める効果が期待されます。

海と松原のあいだに建てたこの建築では、外周の階段を立体的に歩むことで、駿河湾と松原が生む壮大な景観を体験できます。建物自体は松原・海・夕日などの自然を映し込み、周辺環境と調和する外観としています。

優秀賞(静岡県建築士事務所協会賞)受賞者:川名ひよどり保存会・NPO法人わたぼうしランドデザイン・一般社団法人 College Impact Japan

『中世以来の農山村景観が今に息づく「川名ひよどりの里」』(浜松市浜名区) 所在地:浜松市浜名区引佐町川名



川名の集落内には三岳城跡(国史跡)、井伊直平墓所や鎧橋(いずれも浜松地域遺産)など井伊家ゆかりの史跡・建造物・伝承地が点在し、伝統行事「川名のひよどり」(国重要無形民俗文化財)が室町時代の応永年間(1394-1428)から連綿と伝えられています。

当地域では、昭和 50 年(1975)に設立された川名ひよどり保存会を中心に、伝統行事の継承活動のほか、歴史的建造物保存修理や史跡看板設置など、日常の風景に埋もれていた歴史遺産を、景観資源として磨き上げ(顕在化)することで歴史的景観の維持と地域活性化に取り組んでいます。